

↓鉄骨がむき出しになり、地面には瓦礫が散乱し、重々しい雰囲気漂う原爆ドーム。まるでここだけ時間が72年前で止まっているかのようなようでした。



平成29年度 小山・野木・結城合同広島平和記念式典中学生派遣団報告記

平和への願い

野木町では、平和活動のリーダーを育成することを目的に、平成26年度から小山市と合同で中学生の代表を広島平和記念式典に派遣しています。28年度より結城市も加わり、今年度も2市1町で参加しました。

8月4日(金)～6日(日)の日程で派遣し、6日(日)には広島市で開催された平和記念式典に、小山市と結城市の中学2年生と共に、野木中学校2年生1名、野木第二中学校2年生2名の計3名が参列しました。中学生代表として、また町民の代表として立派にその務めを果たしてきました。派遣を通じて「平和」について学んだこと、現地で体験したり感じたりしたことなど、中学生3名の感想を紹介します。

野木中学校

関口 功太郎



昨年、アメリカのオバマ元大統領が現職米大統領として初めて被爆地広島を訪れました。原爆ドームを見つめる大統領の後ろ姿をテレビで見たい、私も同じ景色を生で見たいと思います。この派遣事業に参加しました。実際に見た原爆ドームは鉄骨がむき出し

になり、地面には瓦礫が散乱し、まるでそこだけ時間が止まっているかのようなようでした。私はその場で核兵器の廃絶と世界の恒久平和を祈り、原爆ドームの姿をしっかりと自分の目に焼き付けました。平和記念式典では、平和を願う国内外の人の多さに感動しました。そして、子ども代表による平和への誓いからは、戦争の悲惨な歴史についても目をそらさず、深く学ばなければいけないと痛切に感じました。広島で過ごした三日間は、平和の有難さや命の尊さについて考える良い機会になりました。

した。私はこの幸せがいつまでも続くことを切望し、今回の体験を一人でも多くの人に伝えていきたいと、思いを新たにしました。





↑原爆ドームの周辺には近代的なビルが立ち並び、日本でも有数の大都市となった広島。ここでの3日間は、平和の有難さや命の尊さについて考える良い機会になりました。



↑野木中、二中の生徒みんなの平和への思いを託した折鶴を、「原爆の子の像」へ捧げました。

野木第二中学校
岩本 拓真



私は、72年前のあの日、広島
島の地で何が起こったのか、
戦争とはどのようなものなの
かを学ぶために、広島派遣に
参加しました。

初めて訪れた広島は、緑の
多い美しい街並みが広がって
いました。しかし、原爆ド
ムだけは違いました。がれき
が散乱し、鉄骨がむき出しの
まま残っていて、重々しい雰
囲気が漂い、そこだけ時が72
年前で止まっていて、霧が
た。そして、平和記念資料館
を見学しました。そこで、最
も印象に残っているのは、原
爆によってやけどした人の写
真です。思わず目を背けたく
なるような光景でした。この
ような展示物、そして原爆
ドームが残っているのは、広
島の人々の平和への願いの現
れです。私は、広島への派遣
で72年前のあの悲劇、戦争の
悲惨さをより多くの人が学ぶ

べきだと思いました。そして、
広島の人々の平和への願いを
永遠に語りつがなくてはなら
ないと思いました。

野木第二中学校
諏訪 結衣



私は、広島平和式典に参加
し、感じたことがあります。

一日目に広島記念公園に入っ
た時は、開放感があり、本当
に原爆が落とされたのかなと
思うほど、緑豊かできれいな
公園という感じでした。しか
し、二日目の朝、平和式典に
参加するために公園に入った
途端昨日とは全く違う雰
囲気を感じました。昨日は、と
ても広く感じたのに人が多く、
狭く感じ、原爆ドームが大き
く見えました。そこには、何
とも言えない空気が流れてい
て、時間が止まっているよう
に思えました。家に帰ってか
らなぜそう感じたか考えてみ
るといろいろな国の人たちが
の様々な思いが公園中に流れ、

言葉では言い表せない雰囲気
を感じたのだと考えました。
私は、式典に参加したこと
のない人に、その空気を感
じてほしいと思うと同時に、
戦争のことだけを伝えていく
のではなく自分がどう感じた
かを伝えることも平和な世
界を作るために大切だと思
いました。



※学校教育祭で中学生の広島
派遣報告表があります。ぜ
ひ、足をお運びください。
日時 11月19日(日)
13時20分、
場所 エニスホール大ホール
問 ことも教育課(☎)4182